

特集：キャリア支援

就職活動を終了した修士2年生から生物学類生へのメッセージ

木場 隆介（所属：生命環境科学研究科 林研究室 内定先：食品業界 商品開発）

①就職活動を終えての感想

本当に楽しくて、充実したものだ。—これが就職活動を終えた私の率直な感想です。一生のうちに、これほど真剣に自分を振り返り、見つめ直す機会はそうないと思います。一生のうちに、これほどたくさんの企業を見て廻り、全国の人間と出会う機会は滅多にないことでしょう。思いがけない考え方や素晴らしい生き方に遭遇する毎日は、とても新鮮で刺激的でした。もちろん、楽しいことばかりではありません。思い通りにならないことも多々ありました。何社も落とされる中で、先が見えない不安と焦燥に駆られることも何度もありました。しかし、今振り返れば、それらの苦悩や葛藤の日々こそが、後の自分の成長と自信、感謝につながっていったと思います。10年後、20年後の自分がどうなっていたのかを想像し、これからの輝く未来を存分に思い描くことができた貴重な経験でした。

②就職活動前に普段から心がけておくべき準備

（就職活動を終えて活動前にやっておけば良かったと思うこと/いつの時期に何をすれば良かったと思うか?）

とにかく「自分が全力で挑んだ、人に誇れる経験」を一つでも多く創っておくことだと思います。勉強でも、サークルでも、バイトでも何でも良いと思います。自分が夢中になって打ちこみ、困難を乗り越えて得た経験は、就活で大きな武器になります。「学生時代最もがんばったこと」は、どの業界・職種においても、必ずエントリーシート（ES）や面接で聞かれることだからです。その時に、人に語れる経験をたくさん持っている人ほど、企業側の人間に魅力と将来性をアピールできるのではないのでしょうか。また、そのときまでに、自分の経験を自分の「気持ち」と「ことば」で語れるようにしておく必要があると思います。

③生物学類の教育（遍く生物学教育）を受けた学生が受け入れられやすい業界および職種、または、受け入れられにくい業界および職種に対する考え。

一般的な傾向としては、生物学を専攻した学生は食品業界や化粧品業界、製薬業界などのメーカーを志望していることが多いです。しかし、どのようなバックグラウンドであろうと、企業側の人事の方は、専攻してきた学問よりも、「人」そのものを見ているケースが多いように思います。つまり、その人の性格や考え、強みや弱み、価値観などを重視していると思われます。特に、新卒採用では、中途採用のように即戦力を求めるのではなく、その人を育てることを前提としているため、その人の持つ「将来性」を最も重視しているのではないのでしょうか。

したがって、「どんな学問を専攻してきたか」は選考にあまり関係ないかもしれません。

④就職活動中にとった戦略について

（ES、筆記試験、面接。さらに、生物学類での教育がどのように生かされたかなどあれば可。）

<筆記試験>

筑波大学の学生ならば、問題集（SPI ノートの会がお薦めです。）を自分で解いていけば必ず出来るものなので、この場では割愛させていただきます。しかし、甘く見ずに、早めに時間をとって、しっかりと対策しておくことをお薦めします。

<ES>

まず、「結論から書く」ことです。自分の最も言いたいことを最初に述べてしまうのです。だらだらと長い文章の後に結論を持ってくると、何が言いたいのかはつきりせず、理解しにくい文章になってしまいがちだからです。述べる結論は、簡潔に短文で書いた方が通じやすいようです。

次に、「具体的なエピソードを盛り込む」ことです。抽象的な表現を書き連ねるよりも、実際に自分が経験したことを具体的に書く方が、自分の考え方や生き方を理解してもらいやすいです。その際、「その経験を得るきっかけとなったこと」、「その経験のどこに最も苦労し、何を考え、どう動くことで、その困難を乗り越えたのか」、そして、「その経験から何を学んだのか」をはっきり述べるようにすると良いです。

最後に、「自分の学んできたことをその企業でどう生かしていきたいか」を書くといいでしょう。結局、企業が最も知りたいのは、「将来その人が入社した場合に、どんな活躍がどの程度期待でき、その成果がどれだけ自社の発展に貢献するのか」という点です。自分の誰にも負けない強みを、志望する企業でどのように生かせるか。そのアピールがES では大変重要に思います。

<面接>

面接の具体的なアドバイスとして、私が就職活動を通して出会った様々な方々から頂いた貴重なお言葉をここに述べさせていただきます。私はこれらの言葉をいつも面接直前に振り返り、勇気と自信をもらっていました。ぜひ、これから就職活動を迎える皆さんに贈りたい言葉です。

・就活は婚活だ！一生のパートナーを真剣に選んでほしい。苦しいことや辛いことが多いけど、楽しむことも忘れないで！

（某大手食品メーカー：OBの方）

・自分を信じて自信を持つこと。「できる」と思うことが大切。

（某大手食品メーカー：OBの方）

・面接は笑顔で。ぜひ、面接を楽しんで！

（某大手製薬メーカー：人事部の方）

- ・面接は相互理解の場。採用側が一方的に知る場ではない。
(某大手化粧品メーカー：人事部の方)
- ・「面接者と会話するんだ」という気持ちで望んだ。
(某大手外資製薬メーカー：昨年度内定者の方)
- ・ありのままの自分で真剣勝負！企業側のニーズを知り、自己PRしていこう。
(某大手食品メーカー：OBの方)
- ・身だしなみはしっかりと。シンプルに熱く！
(某大手日用品メーカー：昨年度内定者の方)
- ・言いたいことは詰め込みすぎないように。わかりやすく丁寧な言葉遣いで。結論から述べよう！レスポンスは早めに！ハッキリ！ハキハキと！
(某大手外資製薬メーカー：人事部の方)
- ・自分の輝く未来を考えることって辛いことですか？就活は絶対に楽しいですよ！！
(某大手食品メーカー：人事部の方)

⑤生物学類教育に望むこと

「問題解決型能力」の育成です。これは、ある未知の問題に対して、自ら解決法を考え、その方法を試みて得られた結果から、

再び試行錯誤を繰り返してアプローチを重ね、自発的に解決に導く能力です。具体的には、実験や研究の中で培われていく能力だと思います。就活では「自ら考え、動く」ことが非常に重要な要素になってきます。そのため、問題解決型能力は不可欠な能力であるといえるでしょう。私の場合、就活前の研究生活の経験が非常に役に立ったような気がします。私の研究生活は失敗の連続で、目に見えるような成果は出せませんでしたが、問題解決のために常に解決法を考え続ける中で、この問題解決型能力を養うことができたと思います。この能力は、研究だけでなく、あらゆる分野で必ず生きるはずで、自らの好奇心と探究心を追求する生物学には、他の学問に比べ、この能力を磨き、高めるチャンスが多い気がします。ぜひ、生物学類教育でもっとそのチャンスを提供して頂ければと思います。

⑥将来の抱負

新たな「食」を生み出し、世界中に普及させ、たくさんの笑顔に貢献することです。「食べる」ことは「生きる」ことです。したがって、「食」の開発は、年齢や性別や国境を越えて、世界中のあらゆる人の「生」に貢献できる、非常に有意義な仕事です。いつの日か、自分が創った食品が、多くの家庭のさまざまな場で愛され、そこに喜びを創り出すことができれば幸せです。そんな商品をたくさん生み出すことが夢です。

Communicated by Jun-ichi Hayashi, Received December 2, 2011.